



あなたの仕事は「勉強」です

期末テスト発表になり、今日から部活動も休みになりました。3年生にとっては、中学校最後の定期テストであり、この結果で「第3学年」の成績が決まります。高校入試に向けてのラストチャンスとも言えます。

さて、2年生が5日間の職場体験学習を終え、今まとめをしています。働くことの喜びややりがいを感じる一方で、厳しさも味わったことでしょう。また、社会人としての最低限のルールやマナーについてもしっかりと学んだことでしょう。あいさつをすることや時間を守ることは、学校生活でも守らなければならないことですが、社会ではもっと厳しく、守らなければ「信頼」を失うことになってしまいます。さらに、社会人となるために、今の自分に足りないことは何かがあったことでしょう。その力をつけるためにも、今はしっかりと勉強することが大切です。それが、中学生の“仕事”なのです。期末テストに向けて、しっかり仕事をしましょう。

- 一. 世の中で一番楽しく立派なことは
一生涯を貫く仕事を持つことです。
- 二. 世の中で一番みじめなことは
人として教養のないことです。
- 三. 世の中で一番さびしいことは
する仕事のないことです。
- 四. 世の中で一番みにくいことは
他人の生活をうらやむことです。
- 五. 世の中で一番尊いことは
人のために奉仕し決して恩に着せないことです。
- 六. 世の中で一番美しいことは
すべてのものに愛情を持つことです。
- 七. 世の中で一番悲しいことは
うそをつくことです。

※「心訓」(福沢諭吉)から引用

社長からのメッセージ

浦島デーの講演会で、株式会社イナダの社長から、『これからの社会を生きる中学生に望むこと』として、熱いメッセージをいただきました。世界に目を向けて仕事をしているだけに、説得力のあるお話でした。

- ◆ 恵まれた環境(「学校に来れる幸せ」「給食が食べられる幸せ」「家族がいる幸せ)」にいることを感じ、一生懸命生きることが大切である。恵まれない人の分までがんばって社会に貢献しよう。
- ◆ 社会で一番大切なことは、①あいさつ、②「ありがとうございました」、③「ごめんなさい」がきちんとと言えること。社会では、英語や数学ができることよりも大切である。
- ◆ 家庭教育が一番大切である。家庭教育ができていれば、学校教育もしっかりでき、社会でも役に立てる人間になれる。しかしながら、日本は家庭教育が最もできていない国であると思う。
- ◆ 家庭で子どもに役割を与えることが必要である。それが社会の中で役割を果たすことにつながる。
- ◆ 自分のことしか考えない若者が増えている。自分のことだけでなく、家族、学校、地域・・・、地球レベルで考えよう。世界の中の一人、世界の中で生かされていることを実感しよう。
- ◆ 先進国と発展途上国の違いは、選択肢があるかないかである。先進国の日本は、進学先や就職先も選択肢が多い。努力すれば目標は達成できる。発展途上国は、やりたくてもできない。
- ◆ 日本人の心を持っていない人が多い。我慢強い、自分の意見が言える、自分一人で行動できる人であれ。
- ◆ 人のために自分は何かができるかを考えよ。自分の責任で考えよ。

【オーストラリア体験記④】 シドニーでも、ニューサウスウェールズ州教育省、小・中学校などを訪問した。最初に訪れた小学校は、かつてシドニーオリンピックの水泳で大活躍したイアン・ソープ選手の母校であることがわかり驚いた。また、レバノンからの移民が生徒の8割を占める中学校では、多国籍であるがゆえに問題もいくつかあるが、ボランティアなど人の役に立つ経験をすることで、生徒の成長が見られたことなどが紹介された。訪問以外でも、驚くことがたくさんあった。オーストラリアは競馬が盛んであり、競馬のメルボルンカップが行われるビクトリア州では、毎年11月第1火曜日は、メルボルンカップ・デーとして祝日になるそうである。また、午後4時を過ぎると帰宅する人のラッシュが始まり、長い渋滞ができる。仕事のONとOFFをはっきり使い分け、余暇を楽しんでいるとのこと。学校の先生も、子どもたちが学校にいても、時間が来たらさっと引き上げるそう。部活動や授業の準備などで遅くまで残って仕事をしている日本(詫間中学校)の先生方とは大違いである。でも、これが国民性なのだろう。ちなみに、有給休暇の平均取得日数は、諸外国の中で日本が最も少ないということも聞かされた。日本人の勤勉さがこのような数字にも表れている。

11月3日、日本は「文化の日」で休み。オーストラリアにはそのような日はないが、オーストラリアの文化に触れる目的で、この日は観光に出かけた。そこでも、感動的な風景にたくさん出会った。(つづく)